

事業報告書

2020 年度
(令和 2 年度)

公益財団法人JAL財団

目 次

● 事業の概要

I. 地球人の育成と国際交流を推進する事業

1. JAL スカラシッププログラム	3
2. 「空の日」中学生主要空港派遣事業	3
3. 地球人講座	4
4. 外国人学生に対する研修プログラム（インターンシップ事業）	5
5. 東日本鉄道文化財団研修生に対する研修プログラム	5

II. 日本文化の紹介等国際理解を推進する事業

1. 世界こどもハイクコンテスト	5
2. ハイク普及活動等への協賛	7

III. 航空文明社会の発展に関する事業

1. 新大気観測	7
----------------	---

● 庶務事項

1. 評議員会・理事会	8
2. 賛助会員	9

● 事業報告の附属明細書

10

別添：評議員・理事・監事（2021年3月31日現在）

賛助会員（2021年3月31日現在）

●事業の概要

I. 地球人の育成と国際交流を推進する事業

1. JAL スカラシッププログラム

(1) アジア・オセアニア地区大学生対象プログラム

アジア・オセアニアの大学生・大学院生を日本へ招待し、様々な研修や文化交流を通じて日本への理解や国境を越えた相互理解を促進し、将来のアジア・オセアニア地域を担う若者を育成することを目的としたこのプログラムは、1975 年（昭和 50 年）に日本航空によって開始された。1990 年（平成 2 年）に発足した日航財団（現 J A L 財団）が、その運営を引き継ぎ、充実を図りつつこれまでに 1,667 名の海外学生の参加を得るにいたっている。

第 51 回を迎える今年度のプログラムは、「SDGs ～持続可能な社会へ～ 持続可能な社会を目指して。考えよう、今の社会のために、そして将来世代のために私たちができること。」をテーマとして実施に向け準備してきたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、各国からの入国が原則拒否となったこと、また国内大学での感染例が相次ぎ、宿泊を伴う課外活動がほぼ全面的に禁止されたことを鑑み中止となった。

(2) 中国地区中学生対象プログラム（日中交流事業）

2018 年度は新潟県五十嵐中学校の生徒 7 人が中国北京市の育才中学校を訪問し、2019 年度は、育才中学の生徒 8 名が五十嵐中学校を訪問したが、2020 年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となった。

2. 「空の日」中学生主要空港派遣事業

J A L 財団は、「『空の日』・『空の旬間』実行委員会」(*)より委嘱を受け、「空の日」・空の旬間」事業の一つである「空の日」中学生主要空港派遣事業の企画・運営に当たっている。この事業は、次世代を担う中学生に航空や空港に対する理解と関心を深めてもらい、視野の広い若者へと育成することを目的としており、成田国際空港や海外の主要空港、航空機メーカー、運航乗務員養成施設、機内食工場の見学、また、現地学生との交流等を実施している。1994 年度（平成 6 年度）より実施されており、2019 年度までの参加中学生は累計 432 名に達している。

(*)「空の日」・「空の旬間」

我が国の航空は、民間航空が再開した 1952 年（昭和 27 年）以来、目覚ましい発展を遂げ、今や国民生活にとって不可欠の交通機関となるとともに、空港は地域発展の核となっている。民間航空再開 40 周年にあたる 1992 年（平成 4 年）、より多くの国民に航空に対する理解と関心を深めていただくとの趣旨により、9 月 20 日に「空の日」、9 月 20 日～30 日に「空の旬間」が設けられた。

(*)「空の日」・「空の旬間」実行委員会

国土交通省航空局、本邦航空会社、空港関連企業、航空・空港関連公益法人等で構成され、広く国民一般の空への関心と理解を高め、航空の発展に寄与するために、「空の日」・「空の旬間」事業を実施することを目的としている。

2020 年度事業

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、2020 年度の事業は中止となった。

3. 地球人講座

地球規模で考え行動できる青少年の育成を目的として、第一線で活躍する講師による小中高校生を対象とした「地球人講座」を 2003 年度（平成 15 年度）より国内外の各地で開催している。2020 年度は第 28 回、第 29 回の 2 回を宇宙航空研究開発機構（JAXA）宇宙飛行士の古川聡さん、金井宣茂さんに、日本国内（北海道帯広市）、海外（シンガポール、バンコク）にてそれぞれオンラインにてご講演いただいた。国内外の小中学生の皆さまを対象に宇宙の魅力や宇宙における国際協力などについて語っていただき、また、幅広い質問に丁寧に答えていただいた。参加された皆さまに感動と大いなる学びを与える講座となった。

第 28 回

- ・開催日 : 2021 年 2 月 6 日
- ・講 師 : JAXA 宇宙飛行士 古川聡氏
- ・テーマ : 国際宇宙ステーションでの活動の様子と宇宙での経験
- ・開催 : 北海道帯広市
- ・聴講者等 : 帯広地区の小中学生・保護者 約 176 名
- ・共 催 : 日本航空株式会社
- ・協 力 : 国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）
- ・後 援 : 帯広市教育委員会、十勝毎日新聞社

第 29 回

- ・開催日 : 2021 年 2 月 17 日
- ・講 師 : JAXA 宇宙飛行士 金井宣茂氏
- ・テーマ : 宇宙に暮らす（日本語講演のみ）
- ・開催地 : シンガポール、バンコク
- ・聴講者等 : 合計 1,568 名

〈シンガポール日本人学校〉

- ①クレメンティ校 6 年生 4 クラス 計 120 名
- ②チャンギ校 4 年生 5 クラス、5 年生 4 クラス 計 228 名

〈バンコク日本人学校〉

①泰日協会学校バンコク校 5年生～中学3年生 計 789 名

②泰日協会学校シラチャ校 1年生～中学3年生 計 431 名

・共 催 : 日本航空株式会社

・協 力 : 国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 (JAXA)

4. 外国人学生に対する研修プログラム（インターンシップ事業）

JAL 財団では、国際交流事業の一環として、海外の大学で日本語や日本文化を学んでいる大学生を研修生として受け入れて、日本での就業機会を提供するインターンシップ事業を実施している。1990 年度（平成 2 年度）に開始し、これまでに累計 38 名の海外学生を受け入れてきた。

研修生は、JAL 財団スタッフとして日本での仕事を体験し、さらに JAL グループのボランティア活動へ参加する等により、日本語能力の向上を図りつつ日本文化・社会への理解を深めている。また、JAL スカラシップ大学生交流プログラムの運営に携わることにより、海外学生とも積極的に交流を行い、相互理解に努めている。しかし、2021 年 3 月から受け入れ予定だった北京外国語大学の大学生については、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、延期・期間短縮ともに困難と判断し、研修生の招聘は 2 年に亘り中止となった。

5. 東日本鉄道文化財団研修生に対する研修プログラム

JAL 財団は、東日本鉄道文化財団と各々の事業運営に相互に協力することとしており、その一環として、毎年、東日本鉄道文化財団がアジア諸国の鉄道会社若手社員を日本へ招いて実施している研修の一部として、主に安全をテーマとした研修内容を提供している。インドネシア・マレーシア・タイ・ベトナム・モンゴル・ミャンマーから 10 名の研修生を受け入れ、日本航空(株)の主催する航空教室への参加や、同社の安全啓発センターの見学などを斡旋した。なお、この研修内容の提供は、2007 年度（平成 19 年度）に開始し、これまでの海外研修生受入人数は 109 名に達している。

しかし、2020 年度については東日本鉄道文化財団が招聘を中止したため、実施しなかった。

Ⅱ. 日本文化の紹介等国際理解を推進する事業

1. 世界こどもハイコンテスト

1964 年（昭和 39 年）に日本航空がアメリカの音楽番組で呼びかけた「ハイコンテスト」に始まる海外での俳句普及の取り組みを、1990 年（平成 2 年）の日航財団（現 JAL 財団）設立時より財団が引き継ぎ、日本と世界の 15 歳以下の子どもたちを対象とした「世界こどもハイコンテスト」を二年に一度開催している。このコンテストは、世界の子どもたちにハイコンテストの楽しさを広め、世界で最も短い「詩」であるハイコンテストを生み出した日本文化や日本への理解と国際交流を促進することを目的として、各国の教育機関、

日本航空海外支店などの協力を得て開催している。なお、その作品はハイクと絵で構成することとしており、ハイクを詠むとともにその目の光景や記憶にある情景を自らの手で絵に描きとめてもらうことにより、子どもたちのより豊かな感性を引出し、養うこととしている。

2020 年度（令和 2 年度）末までに作品の募集・選考・表彰等を終えた最新の第 16 回コンテストでは、世界中から約 72 万作品が寄せられている。毎回、開催した都市ごとに大賞、優秀賞を選定し、大賞作品を集めて現地語に日本語・英語の訳を付して単行本「地球歳時記」に編集している。JAL 財団は、その一定部数を出版社より買い取り、国内の主な公立図書館や海外の関係機関に寄贈している。

なお、国内外の俳句大会等に協賛を行うにあたり、それらの大会会場において「地球歳時記」や優秀作品のバナーの展示を行い、世界こどもハイクコンテストの存在や各国の子供たちのハイク創作の実情の紹介に努めている。

※これまでの参加国・地域

アルメニア、アンゴラ、オーストラリア、オーストリア、バングラディシュ、ブータン、ブラジル、ブルガリア、カナダ、カンボジア、クロアチア、デンマーク、東アジア、エクアドル、エジプト、エストニア、フィンランド、フランス（含むフィジー）、ドイツ、ギリシア、インド、インドネシア、アイルランド、イタリア、ケニア、ラトビア、リトアニア、マレーシア、メキシコ、モンゴル、モロッコ、ネパール、オランダ、ニュージーランド、ノルウェー、パラオ、フィリピン、ポーランド、ポルトガル、ルーマニア、ロシア、セネガル、シンガポール、スロベニア、スペイン、スウェーデン、スイス、スリランカ、タイ、トルコ、ウクライナ、アラブ首長国連邦、イギリス、アメリカ（含むハワイ・グアム）、ベトナム、モルディブ、日本

「第 16 回世界こどもハイクコンテスト」の実施

開催期間：日本大会 2019 年 6 月 1 日～2019 年 9 月 30 日

世界大会 2019 年 10 月 1 日～2020 年 2 月 29 日

テーマ：「スポーツ」

協力：国際俳句交流協会、(株)学研プラス

協賛：日本航空(株)

後援：外務省、文化庁、(独法)国際交流基金、(公財)日本ユニセフ協会

今大会は、51 の都市で世界大会を開催し、日本大会を含め 20,716 作品の応募があった。2020 年度は、世界大会の表彰式を各地で開催する予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により各地で表彰式の中止が相次いだ。そのような状況ではあったが、台北大会、高雄大会、タイ大会、天津大会においては、感染対策を十分に取った上で、会場に受賞者のご家族を招いた形式で表彰式を開催することができた。

その他の大会でも、オンラインを用いた表彰式を実施している。

また、全受賞作品は JAL 財団の WEB に掲載し、さらに大賞作品を集めて 2021 年（令和 3 年）3 月に「地球歳時記 第 16 巻『スポーツのうた』」として編集した。

2. その他のハイク普及活動、ハイク関連事業への協賛

- ・第23回 松山 「俳句甲子園」への協賛

1997年（平成9年）以来、毎年8月に愛媛県松山市で開催される「俳句甲子園」（全国高校俳句選手権）に協賛し、賞品を提供している。

- ・第25回 「草枕」 国際俳句大会（熊本）への協賛

1996年（平成8年）に夏目漱石来熊100年記念事業として創設された「草枕」国際俳句大会に協賛し、「JAL財団賞」を提供している。

- ・その他

2020年度から松山市立子規記念博物館にて「世界こどもハイクコンテスト」の作品展示会の開催を始め、本事業の存在や各国の子どもたちのハイク創作の実情の紹介に努めている。（2020年度は、年2回提示会開催）

Ⅲ. 航空文明社会の発展に関する事業

1. 新大気観測

民間航空機に上空の温室効果ガスを測定する装置を搭載して観測を行い、温室効果ガスの空間分布を明らかにし、研究成果の公表や観測データを国内外の研究者に提供することにより、地球温暖化メカニズムの解明に資することを目的とする事業である。また、研究成果や観測データの公開や取り組み内容の公表を通じて、地球環境に対する国民的関心の向上を図ることも目的としている。

この事業は、国立環境研究所、気象庁気象研究所、(株)ジャムコ、(株)日本航空と共同で実施している調査・研究事業であり、観測装置の開発、温室効果ガスの観測・研究成果の公表を国立環境研究所、観測データの品質評価を気象庁気象研究所、観測装置の搭載に係わる航空機改修とそれに関わる当局の承認取得を日本航空、観測装置の整備と運用性の確認をジャムコ、「航空機による地球環境観測推進委員会」の事務局業務とプロジェクト一般の広報活動をJAL財団が主に担って推進している。

観測データは国内外に広く開示されており、それに基づく研究成果については、この事業に参加する研究者に留まらず国内外の多くの研究者により論文にまとめられ、また、学会等で発表されている。なお、この事業は、1993年（平成5年）の開始からすでに26年を経ているが、このように長期にわたる継続的な航空機による大気観測の取り組みは世界に類がなく、その研究成果とともに国内外から高く評価されている。

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、国際線・国内線の大幅な減便が実施されましたが、日本航空各部門の連携を深め、機器搭載する機材の運航便を適切に捉えて観測を実施した。

- ・航空機による地球環境観測推進委員会

産官学の有識者から事業への助言を得るための会議体であり、事務局をJAL財団が務めている。2016年度（平成28年度）より第3期の5年にわたる取り組みが始まったが、その第4回会議を2021年3月12日にオンラインにて開催した。

・観測実績

◎大気サンプリング装置

自動大気サンプリング装置（ASE）及び手動大気サンプリング装置（MSE）を使用した大気採取による CO₂、CO、CH₄、N₂O、H₂、SF₆、各同位体の濃度測定。

測定回数総計 433 回

CY05	1 回	CY06	20 回	CY07	18 回	CY08	23 回
CY09	25 回	CY10	20 回	CY11	21 回	CY12	31 回
CY13	35 回	CY14	30 回	CY15	34 回	CY16	24 回
CY17	23 回	CY18	43 回	CY19	49 回	CY20	36 回

◎二酸化炭素自動連続測定装置

CO₂ 濃度連続測定装置（CME）を使用した CO₂ の濃度測定。

測定回数総計 24,243 回

CY05	59 回	CY06	707 回	CY07	1,547 回	CY08	1,069 回
CY09	1,260 回	CY10	1,145 回	CY11	1,275 回	CY12	1,372 回
CY13	1,744 回	CY14	1,885 回	CY15	2,464 回	CY16	2,327 回
CY17	1,915 回	CY18	2,017 回	CY19	2,158 回	CY20	1,299 回

注. ASE=Automatic Air Sampling Equipment、MSE=Manual Air Sampling Equipment、
CME=Continuous CO₂ Measuring Equipment

● 庶務事項

1. 評議員会・理事会

- ・第 75 回理事会（書面表決） 2020 年 5 月 13 日（水）

- ① 2019 年度事業報告及び附属明細書について審議承認された。
- ② 2019 年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）、附属明細書及び財産目録について審議承認された。
- ③ 定時評議員会招集について審議承認された。

- ・第 56 回評議員会（新型コロナウイルスの感染拡大防止のため書面表決）

2020 年 6 月 9 日（火）

- ① 2019 年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）、附属明細書及び財産目録について審議承認された。
- ② 2019 年度事業報告が行われた。

- ・第 76 回理事会（新型コロナウイルスの感染拡大防止のため書面表決）

2020 年 6 月 24 日（水）

- ① 2020 年度事業計画及び収支予算の修正について審議承認された
- ② 2019 年度業務執行報告が行われた。

- ・第 77 回理事会（書面表決）2020 年 12 月 1 日（火）

- ① 理事退任に伴う新理事選任の件について審議承認された

- ・第 57 回評議員会（書面表決）2020 年 12 月 11 日（金）

- ① 理事退任に伴う新理事選任の件について審議承認された

- ・第 78 回理事会（書面表決）2020 年 12 月 22 日（火）

- ① 常務理事・重要な使用人（事務局長）選任の件について審議承認された
- ・第 79 回理事会（新型コロナウイルスの感染拡大防止のため書面表決）

2021 年 3 月 16 日（火）

- ① 2021 年度事業計画及び収支予算について審議承認された。
- ② 2020 年度業務執行報告が行われた。

2. 賛助会員

46 社 [2020 年度末現在]

以 上

● 事業報告の附属明細書

2020 年度事業報告には、定款第 9 条及び「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

【別添】

評議員・理事・監事

(2021年3月31日現在)

役職名	氏 名	所 属
評議員	青木 周司	東北大学大学院 理学研究科教授
評議員	稲川 廣幸	株式会社JALUX 特別顧問
評議員	清水 新一郎	日本航空株式会社 代表取締役副社長執行役員
評議員	下村 満子	ジャーナリスト、一般財団法人東京顕微鏡院 特別顧問
評議員	原口 幸	株式会社ジェイアール東日本企画 代表取締役社長
評議員	松平 恒忠	一般社団法人日本英語交流連盟 名誉会長
理事長	植木 義晴	日本航空株式会社 取締役会長
理事	安岡 善文	東京大学名誉教授
理事	早水 研	公益財団法人日本ユニセフ協会 専務理事
理事	壬生 基博	森アーツセンター 副理事長
理事	宮下 恵美子	国際俳句交流協会 評議員
常務理事	坂本 直己	常勤
監事	鈴鹿 靖史	日本航空株式会社 常勤監査役
監事	徳永 信	宗和税理士法人 代表社員

【別添】

賛 助 会 員 Members

(2020 年度末)

株式会社アクセス国際ネットワーク	株式会社JALスカイ九州
株式会社梓設計	株式会社JALスカイ札幌
株式会社エージェンシー	株式会社 JALUX
株式会社オーエフシー	株式会社JALナビア
岡三証券株式会社	株式会社JALファシリティーズ
大阪空港交通株式会社	株式会社JALブランドコミュニケーション
沖縄給油施設株式会社	株式会社JALマイレージバンク
空港施設株式会社	株式会社JALメンテナンスサービス
三愛石油株式会社	株式会社ジャルカード
株式会社ジャムコ	株式会社ジャルパック
株式会社JALインフォテック	株式会社ジャルセールス
株式会社JALエービーシー	JALスカイエアポート沖縄株式会社
株式会社JALエアテック	ジャルロイヤルケータリング株式会社
株式会社JALエンジニアリング	大和証券株式会社
株式会社JALカーゴサービス	日航関西エアカーゴ・システム株式会社
株式会社JALカーゴサービス九州	日本エアコミューター株式会社
株式会社JALグランドサービス	日本空港ビルデング株式会社
株式会社JALグランドサービス大阪	日本航空株式会社
株式会社JALグランドサービス九州	日本トランスオーシャン航空株式会社
株式会社JALグランドサービス札幌	野村証券株式会社
株式会社JALサンライト	みずほ証券株式会社
株式会社JALスカイ	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券株式会社
株式会社JALスカイ大阪	合計 46 社
株式会社JALスカイ金沢	